

国際復興支援や都市計画への Brix工法の貢献

ブリックス株式会社

brix.co.jp



Brix



人と土地、そして歴史に 根ざす建築を。

私たちブリックス社は創業26年で培われた
世界特許のBrix工法（RCU工法）で“土地の素材を生かし、そこに
暮らす人びとが自ら街を築く”仕組みを提案します。

モンゴルの新都市建設、ウクライナ国の復興をはじめ、資源調達や
施工人材に課題を抱える地域にこそ、この技術は力を発揮します。

1. 地元地域の石材を使い輸入依存を減らす
→**地産地消**
2. 専門職に偏らない施工で地域住民の参加を促す
→**住民による建設**
3. 数世紀スパンで維持コストを抑える持続可能性
→**世紀建設**

本資料では、貴社と協働の可能性をご紹介します。

目次

Table of Contents

会社概要	03
「Brix工法」の特長	04-05
モンゴル新首都計画への貢献提案	06
ウクライナ戦後復興への貢献提案	07
その他地域への展開可能性	08
社会包摂的な建設モデル	09

会社概要

company overview

BriX

ブリックス株式会社

- 設立 -

ブリックスハウス株式会社1999年設立、ブリックス株式会社2012年設立。
会社創業以来「美しく長持ちする石造りの建築」を追求

- 事業拠点 -

本社は東京（日本橋）、千葉県成田に800坪の自社工場を保有し建築資材を一貫生産、現在今後の需要を鑑みて3000坪の工場を建設予定。
新工場では建材の生産をロボットで行い自動化する（※現在開発中）

- 事業領域 -

建築設計事務所・建設業・建材製造業を自社で兼ねる独自体制により設計～施工までワンストップ提供。現在建設作業効率化の為に建設ロボットを開発中。

- 実績 -

国内で26年にわたり住宅・ビル・商業施設の施工実績（自社施工）があり、都心を中心に多数の建築物を自社の社員で手掛ける

- 技術認証 -

独自のBrix工法は日本・EU・中国で特許取得した実績がある。
耐久性「超寿命300年建築」を掲げ業界革新をリードしている

「Brix工法」の特長

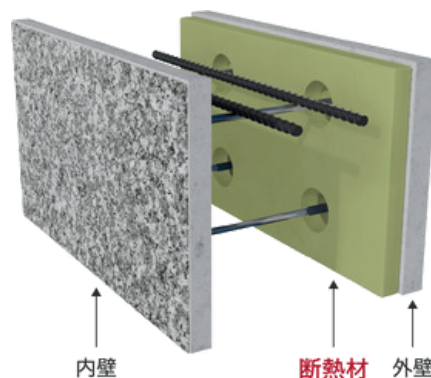


1. 欧州の石造り×日本の耐震

ヨーロッパ伝統の石積み建築の数百年耐久性と、日本の鉄筋コンクリート耐震技術を融合した世界初の工法。耐久・耐震・環境性能に優れ、世界各国（日本,EU,中国,）で特許承認した実績がある

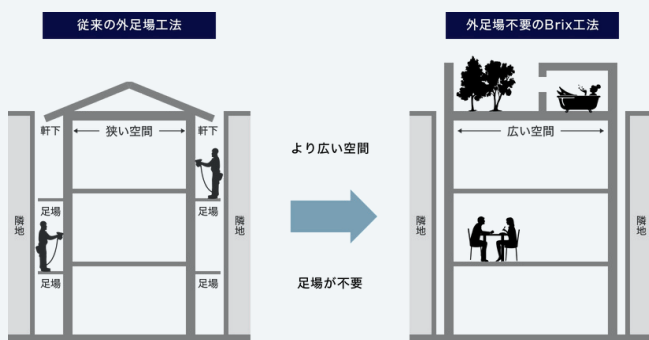
2. RCユニット (RCU)

天然石外装パネルと断熱材を組み合わせたユニットを現場で積み上げ、鉄筋を配してコンクリート充填するだけで組立完了。熟練石工が不要なシンプル施工で、外壁・内壁も同時に仕上がる画期的工法



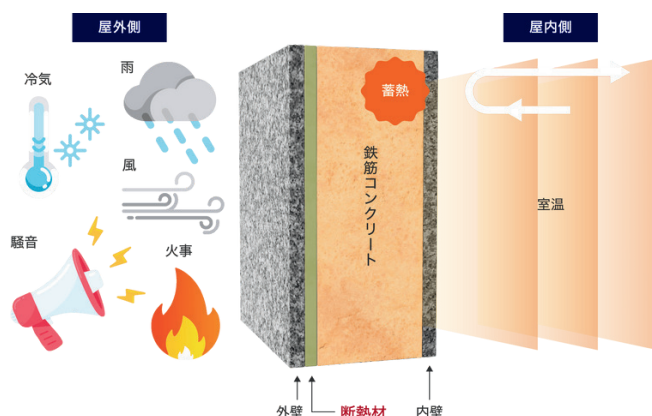
3. 狭小地でも足場不要

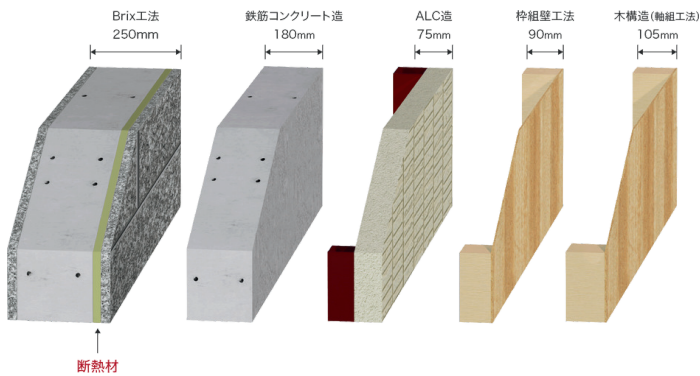
外壁パネルを下から積み上げる独自工法のため建築時の外部足場が不要。都市部の狭小敷地やインフラが限られる地域でも敷地を有効活用した施工が可能



4. 厚壁・外断熱構造

天然石外壁＋高密度断熱材＋鉄筋コンクリート壁の三層一体構造で壁厚25cmを実現。一般的RC造の約1.4倍の厚みが生む高断熱・耐火・防音性能により、冬暖かく夏涼しい快適性



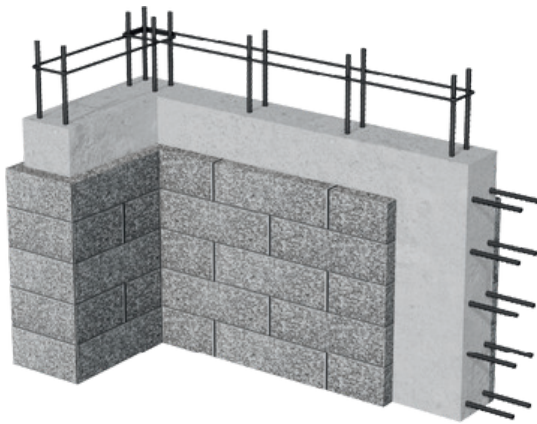


5. 高耐久・メンテナンスフリー

石造外壁は塗装や頻繁な補修を必要とせず、経年美を保つため、長期にわたって維持費が抑えられる。鉄筋コンクリートとの一体構造で経年劣化に強く、数百年規模の超長寿命建築を実現

6. 持続可能な資材調達

主材料はコンクリート、鉄筋、天然石パネルであり、いずれも各国で調達可能な汎用資源。地元産石材の活用など国内資源だけで建設が完結しうるため、長距離輸送を削減して環境負荷低減

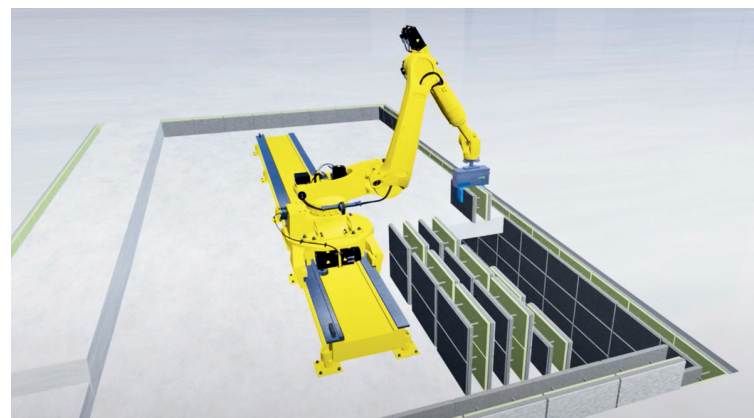


7. 短工期・省人化

現場作業をユニット化し、積み作業、鉄筋入れ、コンクリート打設の3ステップ施工で工期を大幅短縮。従来工法に比べ必要職人を削減し、大量施工時の人手不足にも対応

8. 協働ロボットの導入

建材生産ラインや施工現場へのロボット技術適用を開発中。将来的にパネル製造・組立の自動化を図り、さらなる大量供給と迅速施工を実現する（※現在開発中）



モンゴル新首都計画への 貢献提案

背景

ウランバートルの人口集中・大気汚染問題を受け、首都機能の移転・新都市建設が検討されるモンゴル。厳しい大陸性気候（冬季は -40°C に達する極寒と強風）下での持続可能な都市インフラ構築が課題

課題

冬季の深刻な寒さとエネルギー不足により、断熱性能の高い住宅が不可欠。また熟練の建設労働者が不足する中、短期間で大量の高品質住宅を建設する必要がある

Brix工法の利点

厚い外断熱石造壁により寒冷地でも熱損失を最小化し、省エネで快適な住環境を提供。砂塵や極端な温度変化にも耐える石材外壁はモンゴルの過酷な環境下でも劣化しにくい

施工の容易さ

レゴブロックのように簡単に組み立てることが可能で専門技能のない労働者でも短期習得、建設が可能。遊牧民出身者を含む地元住民を訓練し「全国民参加の都市づくり」を実現でき、人材育成と雇用創出にもつながる

ウクライナ戦後復興への 貢献提案

背景

ウクライナでは戦争により住宅・インフラに甚大な被害が発生。数十万棟規模の建物再建が必要とされ、国内外で復興支援への期待が高まっている

課題

被災住民の帰還・生活再建のため迅速な住宅建設が急務。特に冬の寒さが厳しい地域では仮設ではない断熱恒久住宅が求められる。また資材調達や物流の制約から、今後、以前の美しいウクライナの街を復興させる為に現地の資源を活かした建設手法が必要

Brix工法の利点

現地に豊富に存在する石材など地域資源を最大限活用した再建が可能。自社工場方式を各地域に展開すれば、輸送に頼らず安定した建材供給網を構築できる

施工の容易さ

専門職に依存しない簡易施工は、被災者や地元ボランティアが住宅建設に直接関与することを可能にする。ブリックス社は地域社会との連携を重視しており、現地住民自らが「我が街」を再建することでコミュニティの連帯と自尊心の回復にも寄与する

その他地域への展開可能性

ガザ地区

幾度も紛争被害を受けるパレスチナ・ガザでは、住宅破壊と人口増加により恒久住宅の大量供給が喫緊の課題。Brix工法なら外部から資材搬入が困難な状況下でも、現地で入手可能な石材やリサイクル資源で堅牢な住居を建設可能。迅速施工により被災者の安全な居住空間を早期に確保できる

ミャンマー

内戦や自然災害（サイクロン被害など）で多くの人々が住まいを失っている地域において、インフラが未整備でも施工可能なBrix工法は有効。重機や電力への依存度が低く、ユニットを積み上げるだけの工法は仮設住宅以上・従来工法未満のリソースで恒久住宅を量産でき、避難民の定住化と地域復興を後押しする

フロリダ（米国）

毎年ハリケーンによる住宅倒壊被害が発生する沿岸地域では、災害に強い住宅への建て替えが重要課題。Brixの石造+RC構造は木造住宅に比べ高風速・飛来物への耐性が極めて高く、ハリケーンにも倒壊しにくい。耐水・耐火性能にも優れるため、災害後の迅速な復旧と将来の被害軽減（Build Back Better）に貢献しうる

社会包摂的な建設モデル

全国民による建材製造・施工

Brix工法は高度な技能や重機を必要としないため、地域の人々総出で家づくりに参加できる。「住まい手が自ら築く家」は被災地や新都市でのコミュニティ醸成につながり、復興のプロセス自体が住民の心のケアと社会統合に寄与

現地雇用の創出

各国でBrix方式の小規模工場・施工チームを立ち上げれば、若者や失業者を職人として育成し雇用を生み出すことができる。建築ロボット技術との協働により、未経験者でも安全に携われる作業環境を提供（※現在開発中）

技術移転と自立支援

ブリックス社が培った耐久住宅技術を各国に移転することで、単なる支援に留まらない自立的な復興を促進。地元企業・政府と連携しつつ「現地化」した住宅産業を育成することで、長期的な経済発展と社会安定にも繋げる

Brix工法をグローバル標準の一つに位置づけ、災害や紛争で住まいを失った人々に「数百年先も住み続けられる家」を届けることが
ブリックス社の使命であると考えてる

Brix

Brix